

田村薬品工業株式会社

2019年度 環境経営レポート

(対象期間:2019年1月~2019年12月)



五條工場



開発技術センター・高取工場



作成日: 2020年12月22日

目 次

1. ごあいさつ	-----	1
2. 環境に関する事項		
3. 組織の概要	-----	2
4. 認証・登録の対象組織・活動		
5. 主な環境負荷の実績		
6. 実地管理体制	-----	3
7. 環境目標及びその実績	-----	4
8. 環境活動計画の取り組み結果とその 評価、次年度の取り組み内容	-----	5
9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	-----	6
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示 の結果	-----	7
11. 環境活動の紹介		



1. ごあいさつ

医薬を基本に健康を創造し、提供する企業を目指す。



代表取締役社長
田村 大作

私たち田村薬品工業は、1934年の創業以来、「未来にチャレンジする健康開発企業」を事業目的とし、「医薬を基本に健康を創造し、提供する企業を目指そう」をモットーに取り組んで参りました。

これまで、独創的な製品開発を行い、医薬品ドリンク「イソビタン」、「カ精」を初めとした健康維持・増進に貢献できる製品を数多くお届けすると共に、医薬品製造メーカーとして、GMP基準に則り、「より良い製品を、より安く提供していく」ために、創薬体制の刷新、受託事業の拡充を図り、お客様ニーズに迅速に対応できるシステムの構築に努めて参りました。

特にドリンク剤分野では最新設備を配置し、より信頼性の高い、安心してお使い頂ける薬品をお届けできる環境を整えております。更に事業の拡大に伴い2009年には本社を現在の大阪市中央区道修町に移転し、自身の活動や国内外のお客様との連携の強化を図って参りました。また、2016年4月に開発技術センターを開業、2018年4月にはホシエヌ製薬を統合し、医療用医薬品分野への基礎づくりが整い、さらに2019年6月には和歌山県橋本市に紀ノ光台工場を竣工させ、田村薬品工業は医薬品製造メーカーとしての新たなステージに立つことができました。

弊社は奈良県の歴史的な地区に工場を持つ立地条件にあり、早くから環境との調和を人々の健康に奉仕する医薬品製造業の重要な柱の一つと位置づけ、経営に取り組んでまいりました。これまでの取り組みの一端をご紹介します、弊社の環境保全に関する活動にご理解をいただければ幸いです。

2. 環境に関する事項

環境方針と SDGs

田村薬品工業株式会社 環境に関する基本理念

田村薬品工業株式会社は、人々の健康で豊かな生活に貢献するため、
環境保全の推進に積極的に挑戦します。

環境方針

田村薬品工業株式会社は、人々の健康に貢献する生命関連企業として、すべての事業領域で企業活動と地球環境の調和が経営の基幹要素であることを強く認識し、主体的に行動します。

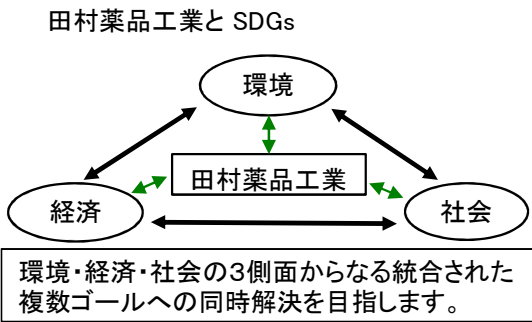
1. 環境に関する法令、条例、協定などの遵守はもとより、自主基準を設定してその達成と環境負荷の低減（二酸化炭素排出量の削減、廃棄物の削減、排水量の削減、化学物質の管理）に努めます。
2. 環境活動に対してマネジメントシステムを構築し、組織的、継続的に取り組みます。
3. 事業活動のすべての領域で、環境への影響を評価し、目標を定めて継続的改善を図ります。
4. 環境に配慮した製品および技術の提案、ならびにグリーン購入の推進に取り組みます。
5. 継続的なリスク低減活動により、環境汚染などの事故の予防に努めるとともに、緊急時においては迅速かつ適切に対応し、被害の拡大防止に努めます。
6. すべての従業員が環境に高い意識を持ち、自ら社会的責任を果たせるよう、計画的に教育・訓練に努めます。
7. 環境活動に関する情報を開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。

2018年 4月 1日制定

田村薬品工業株式会社
常務取締役・生産本部本部長 **田村 康平**

環境方針と SDGs

SDGs



3. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
 田村薬品工業株式会社
 社長:代表取締役 田村 大作
 環境活動代表者:常務取締役 生産本部 本部長 田村 康平
- (2) 所在地
 本社(大阪府) 〒541-0045 大阪市中央区道修町2-1-10 T・M・B道修町ビル
 営業所(東京都) 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町4-3-9 華山ビル5階
 本店工場(御所工場) 〒639-2295 奈良県御所市西寺田50
 五條工場 〒637-0014 奈良県五條市住川町1380番地
 開発技術センター・高取工場 〒635-0153 奈良県高市郡高取町下土佐495番地1
 紀ノ光台工場 〒648-0007 和歌山県橋本市紀ノ光台3-2-1
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
 五條工場 環境管理責任者 工場長 山本 倫哉 TEL:0747-23-2533
 開発技術センター・高取工場 環境管理責任者 工場長 今中 邦夫 TEL:0744-52-4004
 担当者 総務部 課長 齊藤 宗宏 TEL:0747-23-2533
- (4) 事業内容
 医療用及び一般用医薬品の製造
- (5) 五條工場及び高取工場における事業の規模
 主要製品生産量 699トン

	五條工場	開発技術センター・高取工場
従業員	110名	36名
延べ床面積	9,513㎡	4,948㎡

- (6) 事業年度 1月～12月(2018年度以降)

4. 認証・登録の対象組織・活動

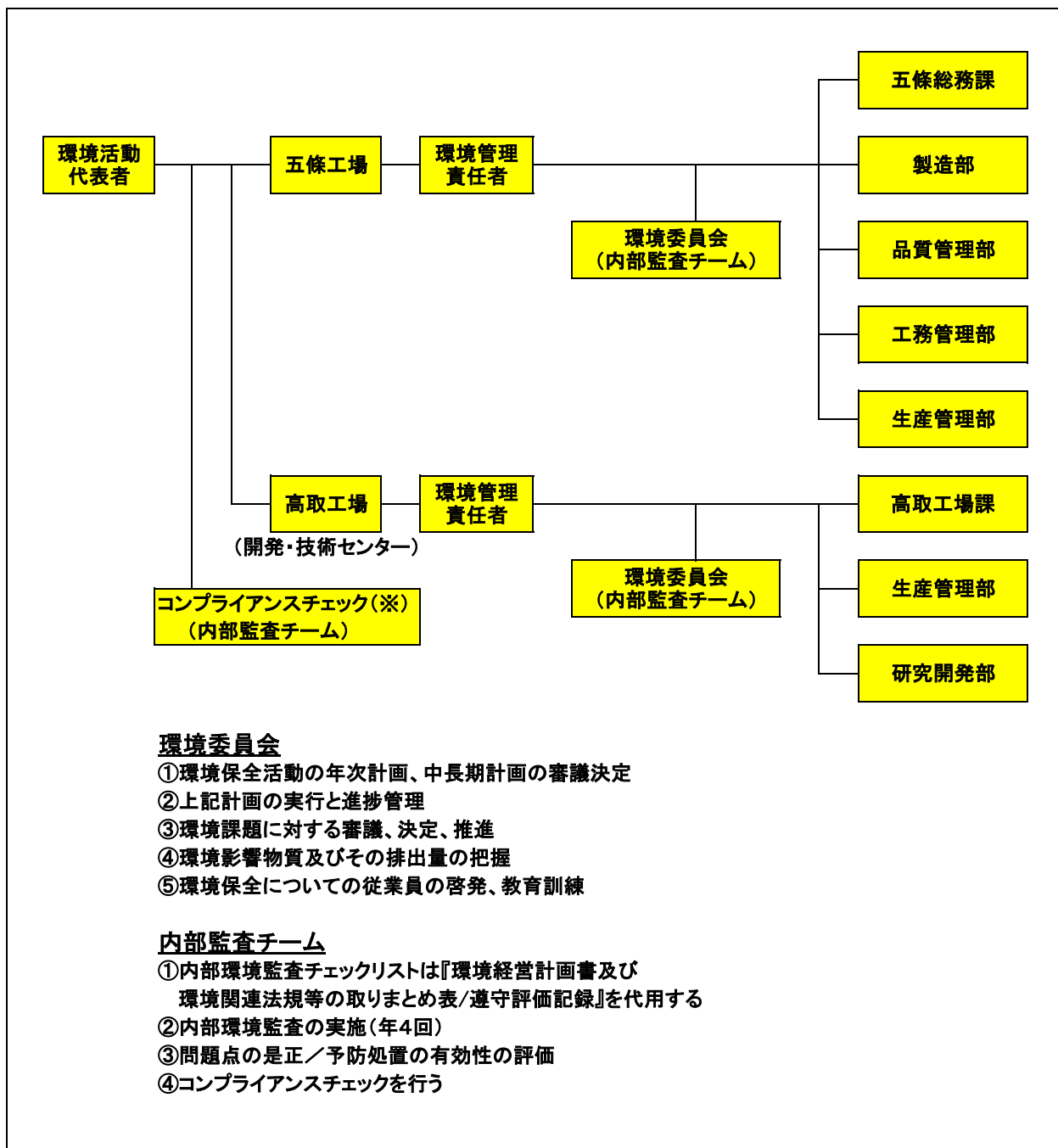
登録組織名: 田村薬品工業株式会社
 対象範囲: 五條工場、開発技術センター・高取工場
 ※紀ノ光台工場については、2023年度に含める計画。
 ※本社(大阪府)、本店工場(奈良県)、営業所(東京都)については、対象範囲に含めるか検討する。
 活動: 医療用及び一般用医薬品の製造

5. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2017年度	2018年度 (基準年度)	2019年度 (レポート対象年度)
二酸化炭素総排出量 (※1)	kg-CO ₂	3,552,388	3,860,197	3,931,850
廃棄物等排出量	トン	73	73	100
廃棄物最終処分量	トン	3	3	3
総排水量	m ³	9,101	11,654	9,624
化学物質使用量	t	3	3	3

(※1)電力の排出係数は、2014年度から0.522-CO₂/kWhを使用している。

6. 実地管理体制



環境委員会

- ①環境保全活動の年次計画、中長期計画の審議決定
- ②上記計画の実行と進捗管理
- ③環境課題に対する審議、決定、推進
- ④環境影響物質及びその排出量の把握
- ⑤環境保全についての従業員の啓発、教育訓練

内部監査チーム

- ①内部環境監査チェックリストは『環境経営計画書及び環境関連法規等の取りまとめ表/遵守評価記録』を代用する
- ②内部環境監査の実施(年4回)
- ③問題点の是正/予防処置の有効性の評価
- ④コンプライアンスチェックを行う

(※)2019年度にコンプライアンスチェックを行う内部監査チームを発足した。

7. 環境目標及びその実績

全社合計

項目	年度	2018年度	2019年度	2019年度	2020年度	2021年度
		(基準年度)	(目標 ※1)	(実績)	(目標 ※2)	(目標 ※3)
電力の二酸化炭素排出量削減 二酸化炭素排出係数(0.522)	kg-CO2 基準年度比	2,912,280	2,918,491	2,942,605	2,913,179	2,884,047
			100.2%	101.0%	99.0%	99.0%
化石燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年度比	947,917	991,458	989,245	979,353	969,559
			104.6%	104.4%	99.0%	99.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	3,860,197	3,909,949	3,931,850	3,892,532	3,853,606
産業廃棄物の削減	kg 基準年度比	78,875	95,688	99,868	98,869	97,881
			121.3%	126.6%	99.0%	99.0%
水道水の削減	m 基準年度比	11,654	10,784	10,547	10,442	10,337
			92.5%	90.5%	99.0%	99.0%
環境へ配慮した技術提案	目標件数		年間 1件	年間 8件	年間 3件	年間 3件
化学物質の管理	目標テーマ		適正管理	逸脱 0件	適正管理	適正管理
グリーン購入	目標購入率		70.0%	61.4%	70.0%	70.0%

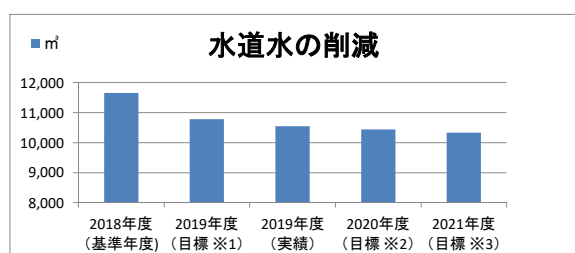
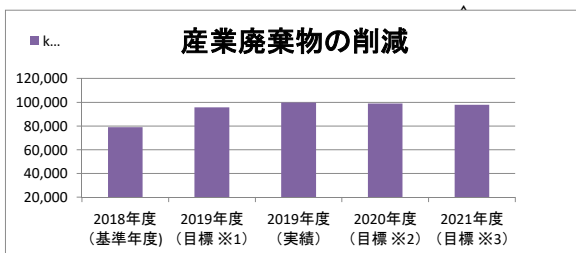
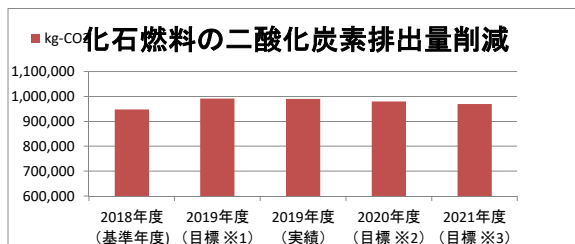
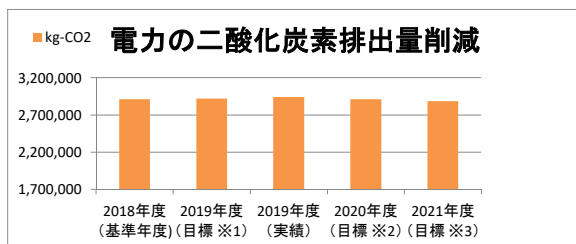
(※) 2015年1月より環境効率指標による目標設定の廃止を行い、前年度の実績比で数値目標を定めることとした。

(※1) 2019年度の目標は増産を考慮して設定している。

(※2) 2020年度の目標は、前年度(2019年度)実績値の1%削減値とする。

(※3) 2021年度の目標は、前年度(2020年度)実績値の1%削減値とする。実績値が出ていないため、レポートでは2020年度目標値の1%削減値とする。

環境負荷の推移グラフ



五條工場

項目	年度	2018年度	2019年度	2019年度	2020年度	2021年度
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 二酸化炭素排出係数(0.522)	kg-CO2 基準年度比	2,524,714	2,539,859	2,562,336	2,536,713	2,511,346
			100.6%	101.5%	99.0%	99.0%
化石燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年度比	917,017	956,166	956,850	947,282	937,809
			104.3%	104.3%	99.0%	99.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	3,441,731	3,496,025	3,519,186	3,483,994	3,449,154
産業廃棄物の削減	kg 基準年度比	73,216	90,936	95,075	94,124	93,183
			124.2%	129.9%	99.0%	99.0%
水道水の削減	m 基準年度比	8,935	8,623	8,356	8,272	8,190
			96.5%	93.5%	99.0%	99.0%
化学物質の管理	目標テーマ		適正管理	逸脱 0件	適正管理	適正管理
グリーン購入	目標購入率		70.0%	55.6%	70.0%	70.0%

開発技術センター・高取工場

項目	年度	2018年度	2019年度	2019年度	2020年度	2021年度
		(※4)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減 二酸化炭素排出係数(0.522)	kg-CO2 基準年度比	387,566	378,632	380,269	376,466	372,702
			97.7%	98.1%	99.0%	99.0%
化石燃料の二酸化炭素排出量削減	kg-CO2 基準年度比	30,900	35,292	32,395	32,071	31,750
			114.2%	104.8%	99.0%	99.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	418,466	413,924	412,664	408,537	404,452
産業廃棄物の削減	kg 基準年度比	5,659	4,752	4,793	4,745	4,698
			84.0%	84.7%	99.0%	99.0%
水道水の削減	m 基準年度比	2,719	2,161	2,191	2,169	2,147
			79.5%	80.6%	99.0%	99.0%
化学物質の管理	目標テーマ		適正管理	逸脱 0件	適正管理	適正管理
グリーン購入	目標購入率		70.0%	81.9%	70.0%	70.0%

(※4) 2018年度より、開発・技術センター全体の数値とする。

8. 環境経営計画の取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容

数値目標：○達成(両工場達成) △やや未達(1工場達成) ×未達成(両工場未達成)
 取り組み評価：◎実施し結果有、○実施した、△検討した、×実施できなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
電力による二酸化炭素排出量の削減		
数値目標	△	五條工場では電気のCO2排出量が前年度比実績で1.5%増加、開発技術センター・高取工場では1.9%減少し、全体では1.0%の増加となった。五條工場では7月から12月の全ての月で前年度より使用量が増加した。要因としては、7月に契約電力を超過したことから、夏場の外気温が高かったことで社内全体で空調負荷が大きくなり、また、包装課のシフト生産が前年より約50日多かったことによる機械稼働と空調稼働時間も増えたことが考えられる。今年度の取り組みとしては、製造部での工程改善による使用電力の削減やこまめな節電や消灯の取り組みがあげられる。開発技術センター・高取工場では使用電力は削減できたが、目標ではわずかに未達成となった。電気使用量は製造起因が大きく、生産ロット数に比例する傾向にあるが、定期的な環境巡視、業務終了後に事務所などの空調消し忘れ確認巡回、各部での環境啓発などを行った。次年度は、両工場共通の活動を継続し、各部ではデマンドシステムなどの既存設備の応用活用や型替えロス、作り直しのロスを減らすとともに、安定稼働に向けた教育の充実を図る。
2019年度目標達成手段		
・ブレーカーに専用機器を取付け、電磁波ロスを削減	△	
・屋根遮熱塗装による室内温度上昇の抑制	△	
・溶出試験液加温槽タイマーによる節電	◎	
・土曜出勤日定時退社によるPC電力削減	○	
・製品の安定稼働を目指す(GMP・各部・全体研修など)	○	
2020年度目標達成手段		
・電力デマンドシステムの活用と警告色の設置		
・試験室作業台照明をLED照明に変更		
・物流倉庫照明を一部LED照明に変更		
・環境活動推進の継続		
・残業時間削減による照明やパソコン使用時間削減		
化石による二酸化炭素排出量の削減		
数値目標	×	五條工場では化石燃料のCO2排出量が前年度比実績で4.3%増加、開発技術センター・高取工場では4.8%増加、全体でも4.4%増加となった。五條工場では灯油使用量が約13.9kL増加(13.9%)し、LPGが約2.2kg増加(1.0%)した。要因として、夏場の外気温が高かったことで、特に製造エリアの空調負荷が大きかった。また、包装課のシフト生産が前年より約50日多かったことによる機械稼働と空調稼働時間も増えて、灯油とLPGの使用量が増加したことが考えられる。灯油とLPGは製造エリアの空調や製造設備の温風、洗浄時の温水に必要で、生産量や外気温に影響されるために削減が難しいが、製造工程改善や稼働時間削減に取り組んだ。また、ガソリン使用量が約540L(33.4%)と大幅に削減したことは、社用車2台の内、1台がハイブリッド車で、従業員の送迎や工場間の移動を優先的に行ったことが削減につながった。開発技術センター・高取工場でも化石燃料のCO2排出量が実績で4.8%増加した。灯油使用量の約600L増加(4.8%)は製造起因が大きく、削減は困難であるが、使用時のみ稼働させるなど地道な取り組みを続けている。次年度の取り組みとして、両工場共通の活動は継続し、各部では生産稼働や品質で影響のない範囲で可能な限りボイラーを停止させる。また、LPGやボイラー設備の日常・月次点検を抜けなく実施して安定稼働に努める。作り直しのロスを発生させないように、安定した生産に向けた教育訓練の充実を図っていきたい。
2019年度目標達成手段		
・必要時のみボイラーを稼働	◎	
・ボイラー、灯油設備日常確認の徹底	◎	
・エネルギー納入(LPG・灯油・ガソリン)の適正管理	◎	
・設備日常・月例点検による設備保全(LPG・灯油・排水設備等)	◎	
・社用車のハイブリッド車有効活用	◎	
2020年度目標達成手段		
・必要時のみボイラーを稼働		
・ボイラー新規購入の検討		
・型替変更改善による廃棄ロス削減		
・設備保全による各部安定稼働の支援		
産業廃棄物の削減		
数値目標	△	五條工場では排出量が前年度比実績で29.9%増加し、開発技術センター・高取工場では15.3%減少したが、全体では26.6%増加となった。五條工場では11月に商品2ロットの資材廃棄が出たことで大幅増となった。また、産廃で高い割合を占めるプラスチックが増えた要因は、包装課のシフト生産が前年より約50日多かったことによると考える。取り組みとしては、型替えロスを低減できるような教育訓練を行った。開発技術センター・高取工場では生産起因が大きく、生産ロットが多い月は排出量も多くなる傾向があるが、排出されたプラスチック袋をゴミ袋に、試薬のガロン瓶を廃液入れに、一斗缶などを廃棄物入れに利用するなど有効活用を行った。
2019年度目標達成手段		
・新規受託製品の安定及び効率生産	○	
・型替えロス見直しによる廃棄プラ削減	○	
・チョコ停による立ち上げロールやシートの使用量削減	○	
・電子データ管理によるペーパーレス化で、必要時のみ印刷	◎	
・システム導入で両面印刷による用紙約半減	◎	
・試験瓶のリサイクルを推進	◎	
・廃棄ポリ袋や一斗缶をゴミ包装で再利用	◎	
・Vベルトの省エネルギーへの切替えを推奨	◎	
・リサイクル品の有償・無償引取りを推進	◎	
・ゴミ分別を推進し、産業廃棄物を削減	◎	
2020年度目標達成手段		
・印刷効率改善による廃棄ロス削減		
・製造工程改善による廃棄ロスの削減		
・原料の受入試験簡略化とリテスト期間延長による廃液量の		
水道水の削減		
数値目標	○	五條工場の使用量は、前年度比実績で6.5%減少し、開発技術センター・高取工場も19.4%減少して全体でも9.5%の削減となった。五條工場では6月と7月を除き全ての月で前年度より減少した。開発技術センター・高取工場でも月によりばらつきがあるが、8月以降は全ての月で前年度を下回り、両工場で昨年度より大幅に減少となった。水道水も製造起因に影響するが、それ以外にも精製水純粋装置の温度管理で循環水としても使われており、研究開発部では、品質に大きく影響せず検討に支障のない範囲で温度管理を緩和して削減に努めた。
2019年度目標達成手段		
・洗浄時に精製水を使用時は、スプレーガンを推奨	○	
・電動ビバットの使用を推奨	◎	
・器具洗浄の効率化	◎	
・排水設備点検を見直し(簡略化)と機器洗浄水の削減	◎	
・水道水使用量の記録と把握(毎日)	○	
2020年度目標達成手段		
・器具洗浄機修繕・購入検討		
・浄化槽点検時の地下水有効活用		
・精製水純粋装置の温度設定変更による循環水の削減		
化学物質の管理		
目標	○	適正管理を行った。
2019年度目標達成手段		
・化学物質の保管状況、使用量等を適正に管理	○	
2019年度目標達成手段		8件の技術提案があった。
・化学物質の保管状況、使用量等を適正に管理		
・廃棄試薬と廃試液の適正廃棄と管理		
・IJP変更検討によるインク不使用		
環境へ配慮した技術提案		
目標	○	8件の技術提案があった。
2019年度目標達成手段		
・製品仕様(製造工程)において環境負荷が低減できる可能性を調査し、提案する。	◎	
・省エネ活動、技術等の情報収集(随時)	△	
2020年度目標達成手段		
・製品仕様(製造工程)において環境負荷が低減できる可能性を調査し提案		
グリーン購入		
数値目標	△	新年度1回目の委員会で、エコマークがついた商品を購入することを推奨した。また、事務消耗品購入時に、エコ対象商品であるかの確認や、不要な量の購入、各部署間での使い回しなどを行い、購入量を可能な限り減少させた。
2019年度目標達成手段		
・グリーン購入を推進し、環境対応品購入比率の向上	×	
2020年度目標達成手段		
・グリーン購入を推進し、環境対応品購入比率の向上		
・事務消耗品の有効活用(社内リサイクル)		

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

弊社の五條及び開発技術センター・高取工場に適用される環境関連法規は次の通りです。

『開発・高取』は開発技術センター・高取工場

適用される法規制	工場	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	五條	産業廃棄物(金属類・廃プラ類・廃油廃ガラス・汚泥、水銀使用製品産業廃棄物など)、一般廃棄物(紙くず、生ごみなど)、特別管理産業廃棄物(廃アルコールなど)
	開発・高取	
PCB特別措置法	開発・高取	安定器
家電リサイクル法	五條	冷蔵庫、洗濯機、ブラウン管テレビ、エアコン、プラズマテレビ、衣類乾燥機
	開発・高取	
自動車リサイクル法	五條	社有車
	開発・高取	
フロン排出抑制法	五條	業務用冷凍冷蔵庫・業務用エアコン等
	開発・高取	
省エネ法	五條	使用エネルギーは1500kL以上(原油換算)につき特定事業所
	開発・高取	使用エネルギーは1500kL未満(原油換算)につき適用外
騒音規制法	五條	空気圧縮機、送風機
	開発・高取	
振動規制法	五條	空気圧縮機
	開発・高取	
悪臭防止法	五條	イソブタノール・酢酸エチル・アンモニア・トルエン・キシレン
下水道法	五條	排水処理施設設置
五條市下水道条例		
水質汚濁防止法	開発・高取	排水処理施設設置
浄化槽法	開発・高取	生活排水浄化槽
公害防止協定	五條	廃棄物、工場排水、空気圧縮機、送風機、イソブタノール
毒・劇物取締法	五條	塩酸、苛性ソーダ、ヒドラジン他60物質
	開発・高取	メタノール、塩酸、苛性ソーダ、ヒドラジン
PRTR法	五條	灯油中の含有キシレン及び1,2,4トリメチルベンゼン、アセトアミノフェン
消防法	五條	危険物製造所・危険物地下タンク貯蔵所・危険物屋内貯蔵所・少量危険物貯蔵取扱所・消防設備の設置
	開発・高取	
高圧ガス保安法	五條	チラー、ガスボンベ、LPGバルクタンク
工場立地法	五條	敷地面積9,000㎡以上または建築面積3,000㎡以上

環境関連法規等の遵守状況の評価結果、環境関連法規等は遵守されていました。

関係当局よりの違反、訴訟等の指摘は、過去3年間ありませんでした。



10. 代表者による全体の評価と見直し・指示の結果

昨年度は五條工場で生産数量が増加したことにより、夜間シフト生産が増加し、前年度より電気、化石燃料の使用量、産業廃棄物の排出量が増加しましたが、水道水の削減は達成できました。また、開発技術センター・高取工場では二酸化炭素排出量や産業廃棄物の削減、水道水の削減を達成できました。この間の取り組みとしては、両工場で温水や空調の未使用時はボイラーを稼働させないような運用を行うとともに、プロセスの合理化を行い、製造設備・試験設備稼働時間の削減に努めました。また、産業廃棄物の削減に関しては、記録類の見直しや電子データ管理による紙類の使用量削減、型替ロス削減などに努めました。

本年度は、昨年度の活動を継続するとともに、製造工程の効率的な設備運転・管理に重点を置き、原料・包材ロスの削減に取り組んでいきます。また、社内目標として『バリュー15』を掲げ、従業員一人一人が15%以上の成果や改善を目指しており、それが環境経営にも反映されることを期待しています。

五條工場、開発技術センター・高取工場で10年以上にわたりエコアクション21を通して環境活動に取り組んできた文化を継承し、経営目標と環境目標の連動を行い、「チームプレイ」で活動推進していきます。

11. 環境活動の紹介

★7月に消防訓練を実施しました。



★11月は緊急時対応訓練を行いました。



★12月は外部講師を招き、EA21活動の意義とともに、世界の環境問題、クイズを通して環境に対する興味や知識を深めました。

